桜島!まるごと絵本

~知りたい! 桜島・錦江湾ジオパーク~

NPO 法人桜島ミュージアム, さめしまことえ著

燦燦舎

2014年3月3日 サイズ: B5 判

カラー, 55ページ, ハードカバー

ISBN: 4907597002 価格 1,400 円 + 税

2013年9月, 鹿児島市域内の桜島や錦江湾をエリアとする桜島・錦江湾ジオパークが, 日本ジオパークに認定された. このジオパークは鹿児島市が主体となって運営されており, 桜島火山との共生により育まれた鹿児島ならではの文化や歴史, 生活を反映したジオサイトがエリア内に豊富にある. この中でも, 活発な噴火活動を続ける桜島の眼前に南九州最大の60万都市である鹿児島市があることが最大の魅力と言える. 鹿児島市の住民は, 噴煙を上げ続ける桜島火山の噴火を日常としながら, 多くの人々が降灰に堪えて日々の生活を続けてきた. これは世界的に見ても他に例を見ない活火山と都市の共生の実例と言える.

実は一般には馴染みはないが、このジオパークのエリア内には桜島火山以外にも、錦江湾には"たぎり"と呼ばれる火山ガスが噴出している場所があり、"若尊カルデラ"という活火山が存在することがわかっている。さらに、錦江湾自体も約3万年前の姶良カルデラの火山活動に伴い陥没して発生した深い海であることも意味深い。これらは全体として、火山活動の織りなす雄大で魅力的な景観をなしている。

2014年3月に、鹿児島市の燦燦舎から、「桜島!まるごと絵本〜知りたい!桜島・錦江湾ジオパーク〜」というタイトルの子供向けの絵本が出版された。出版の年(2014年)が大正3年1月12日の大噴火から100年の節目にあたることを記念しての企画とのことである。

本書の執筆は、鹿児島市在住の美術アーティストである さめしまことえさんと NPO 法人桜島ミュージアム理事長 である福島大輔さんが担当された。福島さんは鹿児島大学 から学位を取得後、京都大学桜島観測所の研究員を務められ、文字通り"桜島の火山博士"である。2005年に現在の NPO 法人を立ち上げられたそうである。



本書は文字通りの絵本であり、さめしまさんが描かれた 柔らかなタッチのイラストと読みやすい文章で桜島を丁寧 に紹介している。前半の物語と後半の解説の2部構成と なっている。

第1章は「ぼくと桜島」と題し、さめしまさんが執筆された.桜島に住む小学生のたけし君が、「ぼくたちはどうしてこんな灰の降るようなところに住んでいるのけ?」と素朴な疑問を持ち、大根畑でひいおじいちゃんの大正大噴火の体験談などをおじいちゃんから聞く.ひいおじいちゃんらが降灰に苦しみながらも桜島にとどまった経緯を知ったたけし君が、島に湧く温泉や甘くて美味しい桜島大根が、桜島からの恵みだと知りとても感動する.そしてもっと桜島を知りたくなったたけし君が友人のさくらちゃんと一緒に桜島ミュージアムを訪れることになる.ちなみに、おじいちゃんとたけし君の会話は鹿児島弁であり、そのため脚注に訳が記されている.

第2章は「火山博士が教える!まるわかり!桜島」である。桜島ミュージアムで、福島博士とたけし君、さくらちゃんが会話をしながら、桜島とはどんな火山なのかを学んで行く、「桜島ってどんな火山?」、「大正噴火ってどん

な噴火?」、「桜島は天然の博物館」、「錦江湾と火山のつながり」、「桜島は恵みがいっぱい!」、「桜島と人びとの長い歴史」、「火山とともに生きるために」の7テーマに分けて、写真やさめしまさんが描かれたイラストとともに3人の会話形式で解説を加えている。余談として、ここに描かれている福島博士はあまり実物に似ていないと思う。読者にはぜひ桜島ミュージアムを訪問して、本人に会って確認することもお勧めしたい。

おまけとして、日本ジオパークに認定された桜島・錦江 湾ジオパークを紹介するコラムや、黒神埋没鳥居など島内 の観光スポットを紹介したイラストマップも付いている. このマップは観光マップとしても活用できる.

本書は桜島ビジターセンターや鹿児島市内の書店、ネッ

ト販売で購入することができる. 燦燦舎 (http://san-san-sha.com 2014/10/29 確認) に連絡すれば直接購入することも可能である. 2014年9月27日の御嶽火山噴火の大規模な人的被害に伴い、お茶の間でも火山防災の話題も多くなっていることであろう. 火山国日本に暮らす皆さんに、是非ご家族でご覧いただきたい一冊である.

なお、NPO 法人桜島ミュージアムからは、「みんなの桜島」(ISBN978-4-86124-211-3;南方新社)というやや大人向きの解説書も2011年4月に出版されているので、桜島の成り立ちや島での生活にご関心をお持ちの方にはこの解説書もあわせてお薦めしたい。

(産総研 地質情報研究部門 七山 太,活断層・火山研究部門 古川竜太)